

東京日々新聞

五百九十二號



無慙まろれ 秋月が娘深雪ハ云と
 戸毎に行て唄ふある 浄瑠璃節ハ
 恋ゆある泣つふたる目あり 鳥
 彼が情郎ハ熊沢某此が夫ハ
 熊次郎 長の眼病ハ打取て遂マ
 警者とある不自由 重荷みそ
 如思等と養ひ煮る
 困窮ハ袖ハ乾クぬ芝
 浦の浪にゆらゆら
 色くさぬ 濱松町の四丁目
 ちる五番の地所乃
 借店住 晝い支りて
 魚と賣り
 宵ハ三味
 線の
 細き稼ハ藝ハ才
 たさる程の薄命
 風雨雪夜も厭ハざる 赤心天
 感通して 明治七年一月
 初旬 褒賞金と賜
 朝貞日記の節操ハ数回
 まさる貞婦といふ

轉々堂鈍記

熊次郎妻ひで

娘ハ

一蕙齋
女方養
野具足屋 渡辺彫栄

